

# 銀の皿

## —説教要旨—「良い聴き手」

このお話は私が高校を卒業し、教会学校の先生になって一年目の時の話です。メッセージの奉仕をすることになりました。今まで自分がしてもらったように、今度は生徒達のために奉仕したい。そして半年間の勉強会を経て満を持して、その時がやってきました。私はメッセージの準備の段階でほとんど緊張していました。なぜなら先輩先生方がいつも簡単そうにお話をしていて、「私も同じように出来る」と勝手に思い込んでいたからです。しかしそんな簡単な事ではなく、奉仕2日前、1日前と全然準備が進みませんでした。

今でも忘れる事の出来ない、日曜日の午前0時、あと9時間後には日曜学校が始まるその時、私の説教ノートは真っ白でした。そして私の頭の中も真っ白で、もう何も考える事が出来ない。その時電話した先が母教会の牧師先生でした。先生がとりあえず来なさい(教会は家の隣)と言う事で、午前1時前、私は教会に行きました。事情を把握して下さった先生は20分ほどで私が話したい事を上手に聞き出して下さり、素早くポイントを書き出してくれました。あとは「早く寝なさい」と先生は言って下さり、家に帰り、寝て次の朝に備えました。朝もう一度先生は私を呼び、一枚のノートを手渡してくれました。それはあの後、先生が寝る間を削って説教の原稿を完成させて下さっていたのです。「後はそのまま読むだけでいいから」と言い、そして奉仕のためにお祈りして送り出してくれました。奉仕は無事に終わり、それからの私は先輩先生達や牧師先生に自分のノートを事前に見てもらい、アドバイスをよく聞いてメッセージの奉仕を準備するようになりました。先生達は嫌な顔一つしないで、何時も快く相談に乗ってくれたことを、今の事の様に覚えています。

この出来事が無ければ今の自分は無いと私は思っています。私は良い語り手になる前に先生達が私にして下さったように「良い聞き手」になりたいと切に願っています。人に対して親身な態度、誠実さ、そして謙虚な姿勢がなければ話を聞くことが出来ても聞くことはできません。聞くという漢字には心がある。だから心で聞く人になって下さい。北野先生がよくピリピの手紙2章5節からこのようにメッセージを語って下さいました。私達はすぐにはそのようになれなくても、そのようになりたいとマリアのようにイエス様にすがりつくことが出来ます。私達がイエス様の言葉に耳を傾けて祈る時、イエス様はその時、ご自身の愛で満たして下さり、私達を一歩ずつ、また一歩ずつ、イエス様の似姿へと変えていって下さいます。共に主の御声に耳を傾けてまいりましょう。

「汝ら、キリストの心を心とせよ」(ピリピ 2:5文語訳)

